越佐健児の精神を受け継ぐ
業務開始の精神教育

　新潟地本（本部長　１陸佐　大倉正義）は、１月１４日（木）令和３年の業務開始に当たり精神教育を行い、新発田駐屯地白壁兵舎広報史料館を研修し、陸軍忠霊塔（納骨堂）を参拝しました。

　白壁兵舎広報史料館には、主に新発田の郷土部隊である歩兵第十六聯隊の日清戦役から大東亜戦争にわたる戦歴、特に多大な犠牲を払いつつも最後まで軍旗を奉じて戦い抜いたガダルカナル島の戦いや、雲南・ビルマ方面の戦いなど各地で繰り広げられた激戦の模様を物語る貴重な資料・遺品等が多数展示されています。

研修の冒頭で本部長から「まさに『鬼神をも哭かしむる』気概を纏って困難極まる任務に立ち向かった先達に感謝し、その武勲を目に焼き付けよ。そして、『我が国を、わが郷土を何が何でも守り抜く』という凄まじいまでの使命感とその根底に溢れる忠烈極まりない愛国心を肌で感じて欲しい。その上で、今一度、我々の使命とは何かという原点に立ち返り、任務に向き合う際の糧としてもらいたい」と訓示を述べ、その後、同館館長の山崎２陸尉（新発田駐業）他の案内により約１時間の研修を実施しました。

後半は新発田西公園に移動し陸軍忠霊塔（納骨堂）を参拝しました。同公園には、地上１０メートルに及ぶ剣の刃を模った「越佐招魂碑」をはじめ、歩兵第十六聯隊が創設以来参戦した戦役、事変に係る忠魂碑等が多数祀られており、その一角に鎮座しているのが陸軍忠霊塔（納骨堂）です。この日は特別にお堂の扉を開放していただき、静かに眠る越佐健児１万５千余柱の英霊に深甚なる感謝の誠と哀悼の意を捧げて堂内を参拝しました。

本教育を通じて隊員からは「我が国を、我が郷土を命懸けでお護り下さった英霊への感謝と、いま我々が享受する平和の尊さを改めて痛感した」「先達の任務完遂にかける凄まじいまでの執念を見倣って自分も任務に向き合いたい」等、隊員一人一人がこみ上げる熱い思いを胸に令和３年の任務完遂に向けて決意を新たにしました。

新潟地本は、今後もこのような精神教育の場を設け、郷土の英霊に恥じることのない「郷土戦士」の育成に取り組む所存です。